

モビリティ・マネジメント教育支援校、25校が決定しました

当財団では、モビリティ・マネジメント教育(交通環境学習)の普及を目指し、自治体や小中・高等学校に対する支援や指針となる教育宣言の作成、事例データベースの構築などの普及活動に取り組んでいます。

学校支援制度に関しては今年度、例年の倍近い25校への支援が決定しました。支援校名やそれぞれの学校での学習テーマは下記の通りです。

支援校一覧

学校名	学習テーマ名称
弘前市立桔梗野小学校	地域の公共交通(弘南鉄道)について考える学習
八戸市立轟木小学校	ふるさとの轟木の交通の未来を考える
桐生市立北小学校	「ゆっくリズムのまち桐生」を調べよう。
酒々井町教育委員会	酒々井学(ふるさと学習)小学校3学年「酒々井の交通」
日野市立日野第六小学校	「たまどうぶつこうえんにいこう」～交通、まちのくふうを考える～
横浜市立神奈川小学校	カナスタグラム ～横浜・神奈川の観光地魅力再発見プロジェクト～
上越教育大学附属小学校	ぐるっとバス紀行
犬山市立楽田小学校	歴史の通り道「楽田」を学ぼう
彦根市立河瀬小学校	みんなで つかう まちの しせつ
京都教育大学附属京都小中学校	京都再発見 私たちから発信しよう ～公共交通とまちづくりの関連を通して～
姫路市立白鳥小学校	もっと知りたい わたしのまち ～乗り物に乗って調べに行こう～
下市町立下市小学校	下市町に欠かせない様々な交通
美作市立英田小学校	公共の乗り物に乗りまくってみよう。
南九州市立青戸小学校	鉄道を利用しよう(特別支援学校における生活単元学習)
世田谷区立用賀中学校	環境にやさしい乗り物について学ぶ
啓明学園中学校	MaaS 未来の公共交通を考える
上越教育大学附属中学校	明治の上越は、どこに鉄道を引くべきか ～室孝次郎の信越線敷設から考える～
同志社中学校・高等学校	駅と地域を活性化する中学生ムーブメント 叡電 八幡前駅プロジェクト
京都教育大学附属桃山中学校	京都市の危機をダイナミック・プライシングで乗り越えることができるか
大阪市立茨田北中学校	大阪シティバスの歴史と「茨田地域」における役割
英数学館中学校・高等学校	E I S Uゼミ(総合的な学習の時間)
海星中学校	長崎バススタンプラリー
茨城県立竜ヶ崎第二高等学校	「竜鉄」展示会・「竜鉄サミット」を通して地域公共交通の魅力を発信しよう!
大阪緑涼高等学校	公共交通機関と歴史的文化的財の共存
長崎県立長崎北高等学校	地域と共生する公共交通の研究その2

第71号：2022年1月発行

公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団 〒102-0076 東京都千代田区五番町10番地 五番町KUビル3階

TEL: 03-3221-6672 (代表 総務部) 03-3221-6673 (バリアフリー推進部) 03-3221-7636 (グリーン経営業務室) 03-3221-7637 (交通環境対策部)

FAX: 03-3221-6674

当財団ホームページ:

<http://www.ecomo.or.jp>



Supported by 日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION



- 特集 ●
グリーン経営業務室の見直し及び
新型コロナウイルス禍での各活動について
- 活動案内 ●
バリアフリー推進部/グリーン経営業務室/交通環境対策部

公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団



会長 岩村 敬

明けましておめでとうございます。

皆様には、すこやかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年は、度重なる緊急事態宣言の発令や延長により、イベントの人数制限や国内外移動の自粛要請期間が長期化するなど、厳しい1年となりました。当財団におきましては、現地開催だけでなく、オンラインを組み合わせたハイブリッド形式でのセミナーや会議を開催するなど、コロナ禍あるいはコロナ後のあるべき姿を模索する契機ともなりました。引き続き、できる限りの対策を行い、各事業を進めてまいります。

さて、昨今のバリアフリー、地球環境問題を取り巻く状況を見ますと、バリアフリーの分野では、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けたバリアフリー法の改正、公共交通機関の旅客施設並びに車両等に関する移動等円滑化整備ガイドラインの見直し、さらに、公共交通事業者に向けた接遇ガイドラインの策定を踏まえ、オリパラのレガシーとしての共生社会の実現、社会的障壁除去の一層の進展が求められています。施設整備等のハード面、情報提供、接遇介助等のソフト面の双方の整備、公共交通機関を中心とした地域の重点的、一体的なバリアフリーの評価等、障害当事者等も参画した取り組みが進められています。

地球環境問題では、2050年カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みの具体化が必要です。

当財団では、本年も、そうした社会のニーズをとらえて、事業を展開してまいります。

具体的な取り組みにつきましては、バリアフリーの分野では、日本財団の支援を受けた旅客船及び旅客船ターミナルのバリアフリー施設整備に対する助成事業を継続して行うと共に、当財団が運営する交通バリアフリー情報提供サイト「らくらくおでかけネット」について、公共交通機関を利用して誰もが安心、快適に移動できるよう、引き続き、情報提供内容の改善等に対応してまいります。

また、ハード面、ソフト面の一体的取り組みの一環として、交通事業者のバリアフリー接遇・介助水準の向上並びに小中学生等をはじめとして、広く社会のバリアフリーへの理解促進を図る研修等を行ってまいります。

また、国土交通省の「公共交通機関の旅客施設並びに車両等に関する移動等円滑化整備ガイドライン」について、同省と共に、技術的進歩や交通環境の変化等に対応し、課題や懸案の解決への取り組みを継続します。

交通環境対策事業では、グリーン経営認証取得者の一層の増加と登録継続を図るため、登録認証の現状分析に基づく有効な普及拡大策を検討したうえで、講習会やリーダー研修会、自治体等による認証取得助成制度の創設・拡充や荷主企業等への働きかけを行ってまいります。エコドライブの普及では、CO₂の排出削減とともに、自動車運行コストや事故の低減効果についても社会的理解に一層努力し、当財団認定のエコドライブ講習の普及促進を図ります。また、エコ通勤の普及についても、エコ通勤優良事業所認証制度への理解を広げ、自治体や地域全体での取り組みとすることを働きかける等、登録事業所数の拡大に努めてまいります。

また、外国人旅行者の個人利用等も含め、誰もが公共交通を利用した円滑な移動ができるよう、自治体、交通事業者及び観光関連組織等とも連携し、分かりやすく経済的な移動の選択について、案内情報提供充実等、地域内連携向上を図る取り組みを支援していくことに加えて、歩行者や既存の自動車とも共存でき、環境負荷の少ない、グリーンスローモビリティの普及に向け、実験車両貸し出し、運行ノウハウ提供を継続します。

本年も、人と地球にやさしい社会実現の一層の進展のため、役職員一同、より積極的に事業を推進してまいります。

最後になりましたが、新型コロナウイルスの一日も早い終息を祈念し、新年のごあいさつとさせていただきます。

グリーン経営業務室の見直し及び
新型コロナウイルス禍での各活動について



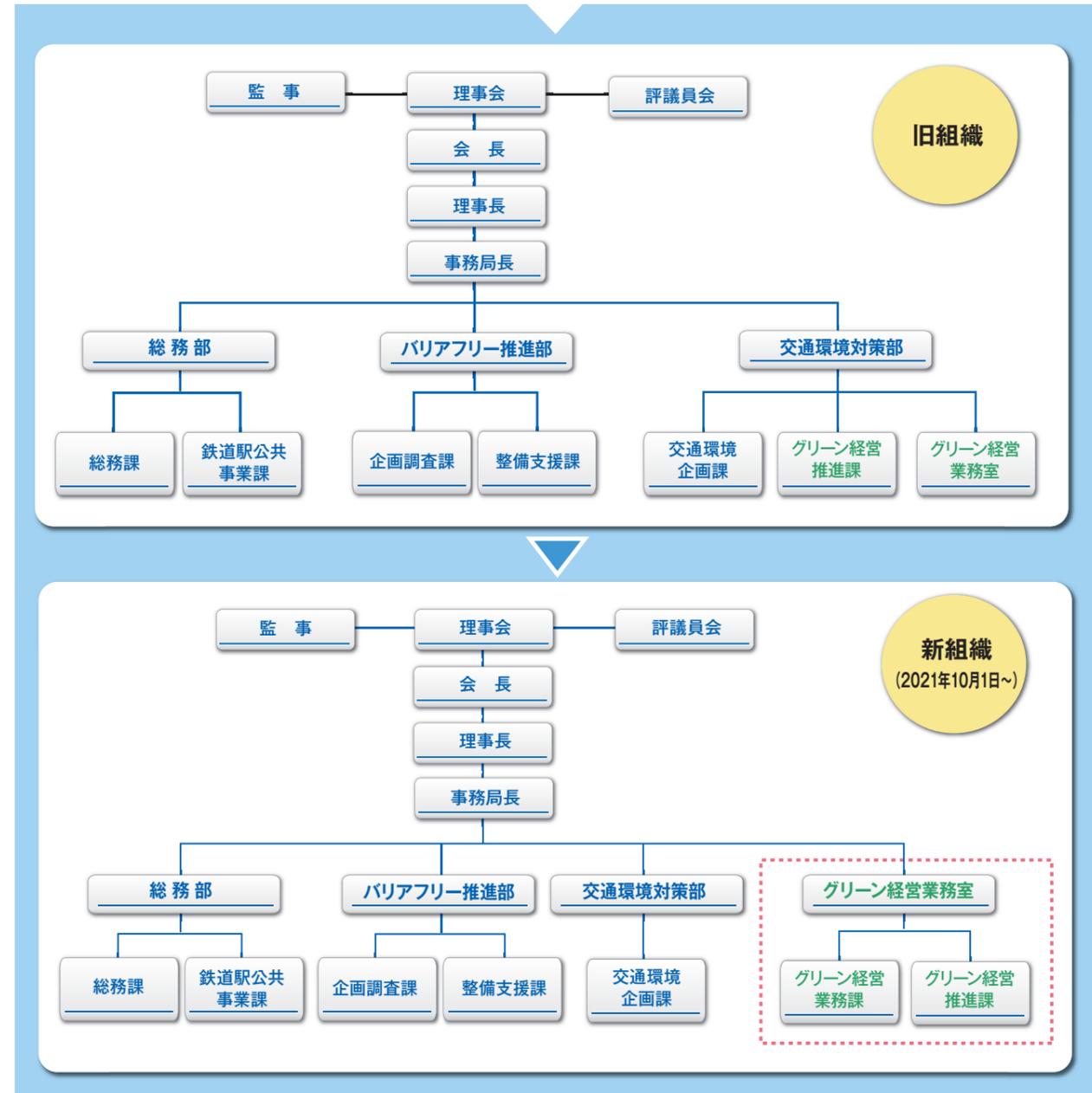
組織改編について

当財団においては、運輸部門における環境問題の解決推進、地球温暖化や大気汚染などの解決を推進するため、環境負荷の少ない事業運営(グリーン経営)の推進及び達成に必要な事業等を交通環境対策部において行っておりました。

政府においては、2030年度目標及び2050年カーボンニュートラルという脱炭素に向けた行程決定といった具体的な動きが示され、更に、社会的な環境意識の高まりに対応するため、当財団においてもグリーン経営事業部分につい

て交通環境対策部より切り分けて、グリーン経営業務室とすることとしました。

この組織改編より、企画・広報・講習・審査・登録業務等について一貫性を持たせる等充実化を図り、グリーン経営認証制度をより多くの事業者等へ周知し認知度を高め、当該制度へ多くの事業者が関心を持ち参加いただけるような組織体制といたしました。





◆新型コロナウイルス禍におけるグリーン経営の活動

新型コロナウイルス対策を行った審査

グリーン経営認証では、新規に認証を取得する際と取得されてから2年おきに現地での審査を行って参りましたが、新型コロナウイルスの蔓延により、事業者の皆様から県を跨いでの審査訪問は控えてほしいとのご要望や、県を跨がない審査であっても、審査の延期を希望される場合もありました。

しかしながらこのような状況下におきましても、新型コロナウイルスの流行状況を考慮し、感染対策を十分に行ったうえで、現地での審査を継続してまいりました。

現地での審査を行う審査員は、感染予防対策に留意し、体温測定を実施するなど体調管理を十分に行い、必要に応じPCR検査を行い、陰

性証明を受けてから審査に伺っております。

また、審査時はアルコール等による手指の消毒や、マスクの着用を徹底したうえで、ソーシャルディスタンスに配慮した席を設け、可能な場合は審査員との間に飛沫防止用のパーティションをご用意いただき行うようにしております。

今後も新型コロナウイルスの流行状況を踏まえ、事業者の皆様のご要望に沿った形で審査を行ってまいります。

なお、事業所と審査員間でオンラインの環境が整っている場合におきましては、リモート審査も実施しております。

新型コロナウイルス対策を行った講習会

グリーン経営業務室では、これまで新たに認証の取得をお考えになっている、またすでに認証取得済の事業者の皆様向けに、グリーン経営認証制度について、ご説明する講習会を行ってまいりました。

新型コロナウイルスの蔓延とともにしばらくの間、講習会は延期・中止を余儀なくされておりましたが、流行が小康状態になったのを機に、2021年11月よりコロナ対策を十分行ったうえで、講習会の開催を再開いたしました。

講習会の受付時には参加者の方々の非接触型の体温計で検温し、平熱を確認させていただいております。

また、会場への入室の際は必ずマスクを着用のうえ、アルコール等による手指の消毒をお願いしております。

会場は可能な限り換気設備が完備されている会場を使用し、講習会の最中もドアを解放して行っております。

受講席はソーシャルディスタンスに配慮してご着席いただき、定員に対し余裕をもって使用していただいております。

今後も新型コロナウイルスの状況に影響を考慮し講習会を開催してまいります。また、蔓延状況に左右されないリモート開催につきましても検討してまいります。



審査前の検温・消毒



現地での審査の様子



会場での検温（神戸運輸監理部の会議室）



中部運輸局での講習会の様子



リモート審査の様子(事業者)



リモート審査の様子(審査員)



奈良県トラック協会での講習会の様子



静岡県トラック協会での講習会の様子

別府港フェリーターミナルのユニバーサルデザイン化に取り組んでいます

◎「さんふらわあ ぱーる」の乗船調査を行いました

2021年11月16日から17日にフェリーさんふらわあの1泊体験乗船を実施し、バリアフリー設備などの状況を実体験しました。この企画は「バリアフリー評価会議近畿分科会」（国土交通省近畿運輸局が設置）の提案によるもので、同分科会に参加する障害当事者委員（車椅子使用者と聴覚障害者）、有識者、事務局である運輸局職員が参加しました。

普段あまりなじみのない船旅ですが、交通バリアフリーの観点で円滑な移動ができるか、実際に乗船して使い勝手などを検証しようというものです。当財団ではバリアフリー基金を活用した別府港UDターミナル（2022年10月完成予定）の実現に取り組んでいることもあり、本企画に協力することとなり、関西と九州の航路並びに発地と着地のバリアフリー状況を障害当事者の方に評価してもらった貴重な機会となりました。

船内では乗下船経路やバリアフリールームを実際に視察するとともに、フェリー会社担当者より船内設備の説明を受け、緊急時の救命胴衣の装着などを体験しました。移動中は幸い天候にも恵まれ瀬戸内の静かな海と夜景を楽しむこともできました。

大分到着後は「バリアフリー評価会議九州分科会」のメンバーと合流し、旅客船のバリアフリー化、新しいターミナルへの期待など意見交換を行いました。

なお、本調査実施にあたってはフェリーさんふらわあのご協力をいただきました。



6時20分予定通り大分港に到着



フェリー会社担当者から船内設備などの説明を受ける参加者



船内のバリアフリー客室などを視察



デッキに出て非常時の脱出に関する説明を受ける。救命胴衣の装着体験も行った



リフト付き貸切バスで大分港から別府港へ移動



現在の別府港ターミナル及び新たなUDターミナル建設予定地を視察



◎意見交換会を開催しました

乗船調査に引き続き、バリアフリー評価会議の近畿分科会と九州分科会との意見交換会を別府亀の井ホテルで開催しました。

三星昭宏近畿大学名誉教授の司会進行のもと、別府港UDターミナルに関する取り組みについて、株式会社フェリーさんふらわあ、当財団、NPO法人自立支援センターおおいた、別府・大分バリアフリーツアーセンターから活動内容等の報告を行いま

した。また、前日の乗船体験について近畿分科会の障害当事者からフェリーにおけるバリアフリー化についての感想コメントがありました。最後に、新田保次大阪大学名誉教授と羽野暁九州大学特任助教から、今後のバリアフリー化についての取り組みにおいては、当事者参画に加え、地域間交流が新しい知見の発見に繋がる重要な点であるとのご意見をいただきました。



意見交換会の様子(於:別府亀の井ホテル)



意見交換会参加者による集合写真

◎手交式を執り行いました

11月30日に別府観光港ターミナルにおいて、別府港UDターミナル推進協議会構成員の後藤秀和氏、若杉竜也氏の立ち会いのもと、株式会社フェリーさんふらわあと「別府港UDターミナル提言書」の手交式を執り行いました。株式会社フェリーさんふらわあの赤坂光次郎社長より、提言書の内容を参考に、多様なお

客さまに満足してご利用していただけるターミナルになるよう取り組みたいとの挨拶をいただきました。また、手交式の終了後、山田雅文大分県福祉保健部長を訪問し、今後の計画について報告し、意見交換を行いました。



手交式(左から後藤氏、エコモ財団吉田、赤坂社長、若杉氏)



大分県福祉保健部長との意見交換

空港施設ユニバーサルデザインセミナー in 福岡を開催しました

2021年10月14日、15日に福岡国際会議場において、「空港施設ユニバーサルデザインセミナーin福岡」が開催されました。

ユニバーサルデザインは、「年齢や能力、状況などにかかわらず、デザインの最初から、できるだけ多くの人々が利用可能にすること」が基本コンセプトですが、これを実現するためには最初から障害当事者と共にインクルーシブデザインを進めることがベストです。

今回はインクルーシブデザインとまではいきませんでしたが、出来るだけ多くの人々が利用できる空港を目指して、2019年度、2020年度において8つの空港を診断し、課題、改善方法を議論しながら整理した内容を各空港担当者と共に報告しました。また、見えにくい障害の対応方法や、刻々と変化しているサイン環境等について報告しました。

セミナーは、当財団の他、一般社団法人日本福祉のまちづくり学会事業委員会、中央大学研究開発機構が主催し、福岡国際空港株式

会社、一般社団法人全国空港ビル事業者協会の共催、国土交通省の後援を得ました。昨年同様、コロナ禍における開催のため、感染防止対策を行った会場とオンライン配信のハイブリッド方式となり、現地参加103名、オンライン参加97名、合計200名が参加しました。



セミナーの様子

「私とみんてつ」小学生新聞コンクールに協賛しています

当財団は、一般社団法人日本民営鉄道協会が主催する「私とみんてつ」小学生新聞コンクールに「バリアフリー賞」を設ける形で協賛しています。このコンクールは、「新聞」づくりを通じて子ども達に鉄道に対する関心や理解を深めてもらうことを目的に、2007

年度より開催されており、第15回目を迎えた今年度は、4,756作品の応募があり、その中から3作品の「バリアフリー賞」受賞作品が決定しました。

詳しくは、日本民営鉄道協会HP [みんてつ新聞コンクール](#) で検索

バリアフリー賞 受賞作品



だれでも😊(ニコニコ) 電車とユニバーサルデザインしん間
横浜市立大門小学校2年生 佐藤 洗太郎さん



ホームの点字ブロックはいのちをまもる
大阪教育大学付属天王寺小学校2年生 村尾 嶺花さん



意外と知らない! 駅のバリアフリー
久喜市立栗橋小学校5年生 荒川 由宇さん

運輸事業におけるグリーン経営認証制度を実施しています



グリーン経営とは、環境マネジメントシステムの一つであり、企業の社会的責任として、環境問題にも積極的に取り組むためのツールです。

国土交通省は、この認証制度を運輸部門における実効性のある環境対策として評価し、国の政策(国土交通省「環境行動計画2014~2020」)の取り組みの一つとして取り上げています。

■ 当財団による普及活動

◆ グリーン経営認証取得講習会の開催

運輸事業者を対象とした講習会を国土交通省や事業者団体等と共同して、全国各地で開催しています。講習会では、グリーン経営の取り組みや認証制度の概要、認証を取得するために取り組むべき具体的な活動内容や申請方法を説明し、受講者からの質問にもお答えしています。

◆ グリーン経営認証リーダー研修会の開催

認証登録後の情報提供やフォローアップの一環として、認証登録事業者を対象とした研修会を全国で開催しています。この研修会は、経営層はもとより各分野でリーダー的役割を担う方々にグリーン経営認証に係る周辺情報・これまでの成果・今後への期待、環境関連法規制や教育資料の作成等を当財団より説明しています。

◆ 出前説明会の開催

グリーン経営認証の普及や理解の深化を図るため、荷主企業や元請物流事業者に対して「出前説明会」を開催しています。

この出前説明会は、荷主企業や元請物流事業者が協力会社向けに開催する各種の講習会や研修会に当財団の職員が出向き、グリーン経営認証について説明する取り組みです。

■ 国・自治体・業界団体・金融機関による様々な支援

グリーン経営認証制度は、当財団が国はもとより業界団体と一体となって推進している制度です。本制度の普及・促進にあたっては、国等による補助制度での優遇、各種ガイドラインへの位置づけに加え、業界団体による認証取得費用の助成といった様々な支援が行われています。

◆ 業界団体による認証取得費用の助成

一般社団法人日本冷蔵倉庫協会と都道府県トラック協会は、グリーン経営認証に取り組む会員事業者に対して、グリーン経営認証の取得に要した費用の一部を助成しています。

◆ 金融機関等による低利融資制度・信用保証協会による保証料の割引

金融機関等では、グリーン経営をはじめとした環境マネジメントシステムを実施している事業者に対して、「低金利の運転・設備資金融資」、「私募債の発行保証・引受代行」、「信用保証協会による保証料割引」、「損害保険の保険料割引」といった優遇を講じています。

【グリーン経営認証制度の概要】

- ・認証機関: 当財団
- ・対象業種: トラック、バス、タクシー、倉庫、港湾運送、旅客船、内航海運の7業種
- ・登録開始年月: 平成15年10月<トラック運送事業>
平成16年4月<バス事業、タクシー事業>
平成17年7月<倉庫業、港湾運送事業、旅客船事業、内航海運業>

◆ 自治体による各種支援

自治体の中には、地域における環境保全の取組や地域住民の生活環境改善への一助として、グリーン経営認証を活用した環境保全に尽力する事業者を評価し、グリーン経営認証の取得に要した費用の一部を助成・補助している自治体があります。こうした助成や補助は、環境問題に積極的に取り組む事業者の経済的負担の軽減を図るとともに、環境保全に向けた意識の高揚にも寄与しています。

自治体の皆様へ

グリーン経営認証取得の効果は、燃費の向上やCO₂排出原単位の改善だけでなく、「交通事故件数や車両故障件数の減少」など、まちの安心や安全に寄与すると思われる効果もあります。

**ぜひ、あなたのまちも
運輸事業者の認証取得に対する助成・補助や支援についてご検討いただけないでしょうか**

当財団では、グリーン経営認証制度をご理解いただくために「グリーン経営認証の資料セット(パンフレット・DVD(グリーン経営認証制度の概要と取得の効果)・省エネ温度計カード)」をお送りしています。

ご希望の方は、グリーン経営専用ホームページにある以下のバナーからお申込みください。



詳しくはグリーン経営専用ホームページ <https://www.green-m.jp/> まで



エコ通勤の手引きを改訂しました

「エコ通勤」とは、マイカーによる通勤から、電車・バスなどの公共交通機関や自転車・徒歩などに転換することにより、二酸化炭素排出量の削減など環境負荷を小さくする取り組みです。エコ通勤を導入することによって、渋滞の軽減や駐車場削減、従業員の健康増進など、様々なメリットがあります。また、「在宅勤務」や「時差通勤」なども環境負荷軽減の面からエコ通勤といえます。

「エコ通勤の手引き」は、これからエコ通勤に取り組む、あるいは現在取り組んでいるエコ通勤を見直して強化するために必要な基礎知識を取りまとめた手引きとなります。今回、この手引きを全面的に改訂し、エコ通勤を実施する事業所向けの「事業所における『エコ通勤』実施の手引き」と、自治体などが地域におけるエコ通勤を推

進するための「地域における『エコ通勤』普及の手引き」を作成しました。令和3年3月31日版として、国土交通省のエコ通勤ポータルサイト、もしくは、エコモ財団の「エコ通勤優良事業所認証制度」のウェブサイトよりダウンロード可能となっております。ぜひご活用ください。

「エコ通勤優良事業所認証制度」は、エコ通勤に関する取り組みを自主的かつ積極的に推進している事業所、自治体等を優良事業所として認証し、登録するとともに、その取り組み事例を広く国民に周知することにより、エコ通勤の普及促進を図ることを目的として2009年に創設されたものです。事業所ごとの認証が可能になっており、2021年11月30日現在、317社765拠点の企業等が認証されています。



http://www.ecomo.or.jp/environment/ecommuters/ecommuters_top.html

下部「事業所における『エコ通勤』実施の手引き」または「地域における『エコ通勤』普及の手引き」へ

グリーンスローモビリティ研修会を開催しました

当財団は、11月1日(月)、2日(火)の2日間に渡り、広島県福山市、尾道市、三次市にて「第6回 グリーンスローモビリティ研修会(広島)」を開催しました。

この研修会では、サプライヤーの皆さまに対し、グリーンスローモビリティの取組への理解を深めていただくと共に、安全走行教育の水準向上を目的として開催しています。

当日は、現地視察、各種講演、安全講習会の立会などを行いました。



試乗(尾道市瀬戸田)

「2021年度エコドライブ活動コンクール」の表彰 およびエコドライブシンポジウムを開催しました

「2021年度エコドライブ活動コンクール」の表彰式は、2021年11月26日(金)東京都千代田区の内幸町ホールで開催の「エコドライブシンポジウム」の中で行われ、大臣賞・優秀賞・審査委員長特別賞が授与されました。

昨年の5月7日～7月7日にかけて募集した「2021年度エコドライブ活動コンクール」(主催:エコモ財団、後援:エコドライブ普及連絡会、エコドライブ普及推進協議会)に、全体で392件、994事業所より応募をいただきました。

入賞者の審査は、10月に審査委員会(審査委員長:大聖 泰弘 早稲

田大学名誉教授)が開催され、国土交通大臣賞1件(事業部門)、環境大臣賞1件(一般部門)、優秀賞7件、優良賞35件、審査委員長特別賞1件が選考されました。また、今回から新たに優秀賞相当の取り組みを継続していると評価された事業者12件には優秀認定証、一定レベル以上の取り組みをしていると評価された事業者41件には優良認定証が授与されました。

シンポジウムでは、国土交通大臣賞の国際自動車株式会社T1や環境大臣賞の株式会社日産フィナンシャルサービスなどから受賞講演をいただきました。



集合写真

「2021年度エコドライブ活動コンクール」の審査結果が掲載されています。



EST交通環境大賞表彰式・記念講演を開催しました

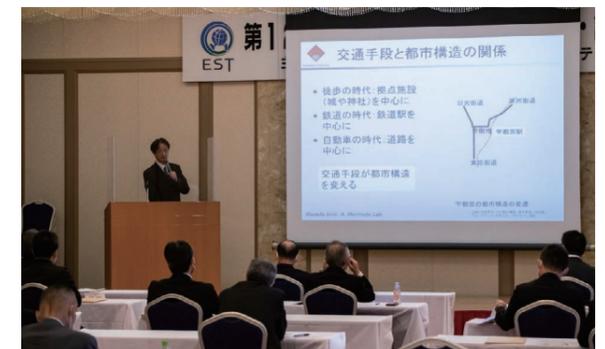
当財団およびEST普及推進委員会は、「第12回EST交通環境大賞表彰式・記念講演」を開催しました。

EST普及推進委員会委員長の加藤博和 名古屋大学 教授による

趣旨説明の後、森本章倫 早稲田大学 教授から「次世代交通とまちづくり」という基調講演をいただきました。表彰式後、大賞(国土交通大臣賞)のYKK株式会社などから受賞講演をいただきました。



集合写真



基調講演

当日の資料集や開催動画も含めて、開催結果の概要はESTポータルサイト等に公開されています。

